

株式会社長峰園

埼玉県鶴ヶ島市

<https://www.nagamine-en.jp/>



店舗概要

創業年 1960年(昭和35年)
売場面積 96.9㎡(29.4坪)
従業員 14.2人
営業時間 9:30~18:00
定休日 日曜日

商品構成

| | |
|----------|-------|
| ・狭山茶 | 66.0% |
| ・狭山茶スイーツ | 22.9% |
| ・茶器等 | 6.9% |
| ・カフェ | 4.2% |

経営方針

- ・お茶を通じてお客様にくつろぎのひと時をお届けする。
- ・生産管理を行って、安心安全なお茶をお客様に提供する。

減農薬・減化学肥料で栽培したお茶を自社工場で一貫生産

〔狭山茶を活かしたお茶とスイーツのオリジナル製品開発〕

狭山茶生産者が直営する店舗として昭和35年(1960年)に創業した。製茶工場に隣接した本店では、高級茶や業務用のお茶、ギフト用の商品からスイーツそして急須や湯呑などの各種茶道具まで豊富な商品を取り揃えている。自社農園では減農薬栽培に努めており、有機質肥料を使用し、農薬の使用も抑制している。自社工場では乾燥工程を経たお茶は熱せられた回転式ドラムの中をゆっくりと通過する。この工程では、お茶の種類・季節・天候等により、時間と温度を変えて、火入れを行なう。長峰園では、やぶきた・狭山かおり・ふくみどり・狭山みどりという品種を生産しており、これらを組み合わせたオリジナル茶を販売している。

更に積極的に取り組んでいるのが狭山茶を使用するスイーツの開発である。製造は外注であるが、抹茶・ほうじ茶・紅茶の三種それぞれの味わいにこだわり、お茶の分量が多いスイーツを企画開発している。フィナンシェやレーズンサンドに代表される洋菓子、葛餅や水ようかんを中心とする和菓子、チーズケーキやジェラードと言った冷蔵菓子にまで製品は広がっている。

【小江戸川越一番街に狭山茶の文化を伝える札の辻店開設】

狭山茶の文化を社会に伝えるため、平成 24 年(2012 年)に古き江戸の蔵造りの町並みを残す小江戸川越「川越一番街商店街」札の辻交差点に川越札の辻店をオープン。明治の建造物である旧呉服店をそのまま生かした造りで、1 階が店舗売店、2 階が喫茶室。通行するお客様に茶舗として認識していただくために看板横に「茶」の文字を書いた壺を設置している。店舗入口にはほうじ茶を製造する小型の機械を置き、お茶を炒るほうじ香を通りに流しているのも茶文化である。このような明治時代に建てられた歴史ある店舗が評価され、都市景観デザイン賞を受賞しているが、1 階の売店は観光客が気軽に買って、気軽に買物ができるお店としている。お茶・スイーツ・茶道具等、一通りの品揃えを行っているが、メインは狭山茶スイーツである。人気は「本日の 108 円シリーズ」。その日によって商品は異なるが、当店オリジナル狭山茶スイーツがバラで 1 個 108 円のお買得価格となる。海外からの観光客が訪れるのも「小江戸川越」の特徴である。外国人来店者の接客には英語会話が必須なため、簡単な会話のできるスタッフを配置している。

【SNS とダイレクトメールで当店の今を情報発信】

狭山茶は地域ブランドとなっているが、都市化の進展で茶園の維持が難しい地域も出てきている。後継者不足と茶価の低迷によって、自園・自製・自販を維持できる業者も減っている。当園は頑なにこのスタイルを貫き通し、狭山茶ブランドを次世代に引き継ぐことを使命と考えている。地域社会の中で当園の広告が掲載されたり、インターネット通じて当園の存在が社会に知れ渡ったりすることで狭山茶ブランドを維持しようとしている。ホームページでは狭山茶を紹介すると共に、狭山茶スイーツ等が購入できるネットショップを開設している。高島屋のオンラインストアでも取り扱われており、品質の良さが高く評価されていることが分かる。SNS としてはツイッターを活用している。発信元は川越札の辻店。季節の商品紹介だけでなく、近隣店舗の営業情報も掲載している。若い人を意識して、楽しく茶器の使い方を紹介することも行っている。店舗では常時 DM 会員を募集しており、年に 6 回程度は季節のイベントやお買得情報を送っている。DM を持参して買い物すると粗品も進呈される。



小江戸川越一番街にある札の辻店



お茶だけでなくスイーツもオリジナル